

2022 啄木祭(6/4) ご報告

3年ぶりの開催となりました「2022 啄木祭」についてご報告いたします。

総合司会：斎藤英樹（劇団ゼミナール）

第1部

出演：盛岡市立渋民小学校鼓笛隊、盛岡市立渋民中学校群読劇、コールすずらん

第一部の渋民小学校鼓笛隊は、コロナ関係の制約の下にありながら、一生懸命に練習を重ねて啄木祭に臨んでいただき、「ドラムマーチ」「ふるさとの山に向ひて」「春まだ浅く（校歌）」を演奏してくださいました。

続いての渋民中学校の群読劇「風の吹くところ」は、昨年の暮れから練習を始められた成果が発揮され、多くの啄木短歌の朗読と地元の音楽家の方が作詞・作曲された「十四」（原詩：石川啄木）などで見事なパフォーマンスを見せてくださいました。

第一部の最後は、地元の女声コーラスグループ「コールすずらん」による啄木歌曲3曲の合唱でした。地元の武井三郎作曲の「空に吸はれし」「かの浜なすよ」と平井康三郎作曲の「ふるさとの」を息の合ったコーラスで披露してくださいました。



渋民小学校鼓笛隊



総合司会：斎藤英樹さん



渋民中学校群読劇



コールすずらん

写真：主催者（啄木祭実行委員会）撮影

第2部 トークイベント「啄木とボク～啄木を演じて～」

ゲスト: 浅沼晋太郎氏(アニメ「啄木鳥探偵處」石川啄木役)

ナビゲーター: 森義真(石川啄木記念館館長)

出演: 中浜聖美(盛岡市先人記念館主任学芸員)・千葉茉耶(野村胡堂・あらえびす記念館学芸員)

佐々木章行(盛岡てがみ館学芸員)・鳥取邦美(石川啄木記念館主任学芸員)



トークイベントの出だし (写真提供: ダンデライオン)

(森) 2020年放送のアニメ「啄木鳥探偵處」を通して、当館とご縁ができました。そこで「2020 啄木祭」に啄木役を演じられた浅沼晋太郎さんをゲストにお招きして開催する予定でしたが、新型コロナの影響で中止となり、「2021 啄木祭」も中止、ようやく今年は開催することができました。3年ぶりの啄木祭に、3年越しにお願いしておりました浅沼さんに、やっのご登壇いただけることになりました。

<浅沼氏>ありがとうございます。

(森) 肩書の「脚本家・演出家・俳優・声優」の基になった活動は、多摩美術大学時代にあったと理解していますが、そのあたりをお話いただければ…。

＜浅沼氏＞映画監督を志していて、大学では映像を専攻していました。課題や自主制作の映画にキャストとして出ていただいた演劇コースの方々と仲良くなったことをきっかけに、先輩が立ち上げた劇団の座付き作家をお願いされ、しばらくして演出もするようになりました。

（森）そして、いくつかの変遷をふまえて、2006年にTVアニメ「ゼーガペイン」へのご出演をきっかけに声優になられた、ということで、これが浅沼さんにとって大きなターニングポイントになるのではないかと、思いますが、このへんのことについて少しお聞かせいただければ…。

＜浅沼氏＞主宰していた劇団が解散せざるをえなくなって、こんなにつらい思いをするのなら岩手に帰って何か芝居とは遠い仕事に就こう、と考えていた際に、以前お願いされて参加したオーディションの合格通知がきました。それが「ゼーガペイン」の主人公、ソゴル・キョウ役です。そのことが、東京に留まるきっかけとなりました。

（森）さきほどの司会の紹介にありましたが、「いわてダヴィンチ 2021」の記事が読者アンケートNo.1になられたことで、「いわてダヴィンチ 2022」では表紙写真と巻頭インタビュー記事が掲載されています。また、企画・編集を始めとしたほとんどすべてを浅沼さんがやられました『東北6県たびBOOK みちのおく』が今年3月末に発行され、これには、「自分のルーツを辿ったノート」と書かれたセクションがございます。そのルーツの数々については、これらの雑誌をご覧くださいことにして、ここでは取り上げません。

一つだけ、浅沼さんの思い出の場所として挙げられておられます「岩山パークランド」についてお聞きしてもよろしいでしょうか。4歳の時に亡くなられたお父様との思い出の場所として、この「岩山パークランドをなんとかしたい」という思いをインタビューで答えられております。その記事を読んだパークランドの経営に関わる方などから、何かコンタクトがありましたでしょうか。

＜浅沼氏＞いえ、まだございません（笑）。

（森）会場の方でどなたか、「岩山パークランド」の経営に関わる方をご存知の方がおられましたら、「浅沼さんがご協力してくれるそうです」とお伝えしていただければありがたいと思います。橋渡しはさせていただきます（笑）。

＜浅沼氏＞「岩山パークランド」は、亡くなった父との数少ない思い出の場所の一つなんです。場所的に子どもだけで行けるところではありませんから、どうしても母や父と行くんですよね。時が経って、高校時代にキャラクターショーのアルバイトとして「岩山パークランド」に行きました。ステージ上、ヒーローの仮面から覗いた風景も、小さい頃と全然変わってなかったです。自分のエゴでしかありませんが、どんな形であれ残っていてほしいと思っています。なんとか力になれるのなら、という思いです。

（森）もう一つ、ルーツに関わることをお話させてください。

アニメ「啄木鳥探偵處」は石川啄木が主役の探偵で、同じく盛岡出身の金田一京助が助手を務めています。浅沼さんは、啄木とのつながりや京助との遠縁というお話をされていますので、この場をお借りして、その点を少し詳しく説明させていただきます。

これには、浅沼さんのお母様が「堀合家」の出自ということが、どちらにも関係しております。まず、啄木との縁です。啄木の妻・節子は堀合節子でした。その父・忠操（ちゅうそう）は「堀合家本家八代目」です。本家四代目から分かれた「堀合家分家初代」の玄孫のツル氏のお嬢さんが兵司（ひょうじ）氏。この兵司氏が浅沼さんの曾祖父というご関係になります。そして、兵司氏の次男の直男（ただお）氏の娘さんが、浅沼さんのお母様ということです。

次に金田一京助氏との縁です。兵司氏の次女・栄（えい）さんが嫁いだのが金田一丈夫（たけお）氏でした。この丈夫氏は、金田一勝定が諸事業（銀行、鉄道、電力など）で築いた金田一財閥の後継者でした国士（くにお）氏の長男です。これを別な言い方をしますと、金田一京助氏のいとこのリウ氏と、そのお嬢さん・国士氏の長男が丈夫氏ということになります。その奥さんが浅沼さんの大叔母さんの栄さんです。ちなみに、丈夫氏の娘さんの敦子（あつこ）さんは女優でして、インターネットのウィキペディアに詳しいご経歴が載っています。

<浅沼氏>アニメの第2話か3話のアフレコが終わったあたりに、母と姉から「遠縁らしい」という話を聞いてビックリしました。こんな話をすると「そういう関係があったから啄木役に？」なんてよく言われるんですが、オーディション時には僕も知らなかったことで。不思議なご縁を感じざるを得ませんでしたね。

（森）この啄木祭に参加できない方々に、少しでも参加していただきたい、という趣旨で、ツイッターで浅沼さんへのご質問を募集いたしました。その結果、たくさんのご質問をお寄せいただきました。本日、ここに来られた方からのものもあります。時間の関係もありますので、この中からいくつか選ばせていただいてご質問させていただきます。浅沼さん、よろしくお願いいたします。

<浅沼氏>ドキドキしますね、よろしくお願いいたします。

（森）まず一つ目。岩手に関連するお仕事が増えていると思いますが、岩手でやってみたことはありますか。

<浅沼氏>僕が所属する「bpm」というエンターテイメント・ユニットで、盛岡公演をやれたらいいな、と思っています。「bpm」の作品は舞台美術が大掛かりなものが多いので、公演をやるとなると、たくさんの装置や専門スタッフが必要になるんです。そのため東京以外での公演は、費用がこれまでよりずっとかかってしまうこともあって、今まで東京でしか上演をしたことがなく……。岩手県はもちろん、どこか自治体のバックアップをいただければ実現しやすいかな、と思っています。

（森）次に、日本で一番広い県であります岩手の中で、行ってみたいところはどこでしょうか。

＜浅沼氏＞三陸海岸ですね。恥ずかしながらまだ行ったことがありません。あとは、中尊寺かな。小学生の時に修学旅行か何かで行きましたが、改めて見てみたいですね。

（森）世界遺産になりました。次に、『みちのおく』には福田パンを食べているところが写っていましたが、浅沼さんは「あんバター派」か「コンビーフ派」か「クッキー＆バニラ派」か、という質問が来ています。

＜浅沼氏＞断然、「あんバター」です。もちろんおかずパンも買いますけど（笑）。

（森）東京に帰る時に買う、岩手のおみやげはなんでしょう。

＜浅沼氏＞ぴよんぴよん舎の冷麺、南部せんべいのピーナツのやつ……あとはごますり団子。そう言えば、石割桜はなくなってしまったんですね。

（森）丸藤が商売をやめてしまいましたからね。

＜浅沼氏＞残念です。あと、黄精飴（おうせいあめ）もいいですねえ。

（森）盛岡の長沢屋で作られており、賞味期限が短かくてメジャーではありませんが、盛岡銘菓です。次の質問です。岩手出身の声優さんに、桑島法子さんや八代拓さんなどがおられますが、お会いしたりすることはありますか。

＜浅沼氏＞桑島さんとは 2～3 回仕事で一緒したことがありますが、畏れ多くてなかなかお喋りできません（笑）。あとは同じ「希望郷いわて文化大使」でもある佐々木未来ちゃん、同じ事務所の後輩でもある千菅春香ちゃんや、奥野香耶ちゃん、汐谷文康君とはお会いします。八代君は何度も一緒したことがあって。彼とはよく岩手の話で盛り上がります。

（森）ツイッターからの質問の最後です。啄木はクセの強い人間のようにでしたが、浅沼さんは仲良くなれそうですか。

＜浅沼氏＞啄木記念館の館長さんの前で言いにくいですが…、どちらかというと宮沢賢治と仲良くしたいかなあ（笑）。

（森）私も、借金を申し込まれると困ると思います（笑）。話は変わりますが、盛岡の小中学生は、先人教育として「石川啄木」「金田一京助」「原敬」「新渡戸稲造」「米内光政」を勉強していますし、「啄木かるた大会」に出る生徒は、かるたで啄木の短歌を暗唱していま

す。短歌は「5・7・5・7・7」の31文字ですが、かるたの取り札は下の句の「7・7」だけ書かれています。ところが、読み手が上の句を読んだだけで、あちこちでかるたがとられるんです。

浅沼さんの小学校時代、啄木に親しんだことはありましたでしょうか。

<浅沼氏>教科書には載っていたと思いますが、意識したことはなかったと思います。意識したのは、大人になってからです。

(森) それでは、そろそろアニメ「啄木鳥探偵處」の話題に入っていきたいと思います。このアニメにおいて、浅沼さんが石川啄木の役を演じられたキッカケをお伺いしたいと思います。

<浅沼氏>もともと金田一京助役で、とオーディションをいただいていたのですが、せっかくなら啄木もちょうかり受けてみちゃおうか、とマネージャーと企んで(笑)、ダメ元で受けて決まりました。ですから、僕が京助で、啄木は誰か違う方だったというのがありえたということです。それどころか、小野賢章君や斉藤壮馬君の啄木とか、梅原裕一郎君や古川慎君の京助という配役だってあったかもしれないんですよね。ただ、津田健次郎さんの啄木はちょっと想像つかないな……(笑)。

(森) ありがとうございます。

<休憩 10 分>

<アニメ「啄木鳥探偵處」PV 上映>

(森) それでは、アニメ「啄木鳥探偵處」について、浅沼さんからいろいろとお話をいただきます。

(鳥取) ちょっと待ってください。森館長！ アニメについては私たちに熱いものがあります。ここからは、私達も参加させてください。

<学芸員 4 名 それぞれ帽子や十手、眼鏡を身に付けて登場し、自己紹介する>



写真：主催者（啄木祭実行委員会）撮影

中浜学芸員－盛岡市先人記念館：盛岡市ゆかりの先人 130 人を顕彰しています。この中で、新渡戸稲造、米内光政、そして金田一京助の 3 人は記念室があり、それぞれ詳しく紹介しています。

千葉学芸員－野村胡堂・あらえびす記念館：紫波町出身で、盛岡中学では金田一京助と同級であり啄木の先輩だった野村胡堂を顕彰しています。作家として「銭形平次捕物控」を書いた「胡堂」と音楽評論家としての「あらえびす」の業績を伝えています。

佐々木学芸員－盛岡てがみ館：岩手や盛岡ゆかりの先人の書簡(てがみ)を中心に原稿・日記等を収蔵し、調査研究・展示しています。啄木と同宿時代に金田一京助が友人に出した長さ約 3 メートルの手紙も収蔵しています。

鳥取学芸員－石川啄木記念館：啄木のふるさと・浜民で、啄木文学の原点から終焉まで啄木の人生を直筆書簡、ノート、日誌など紹介し、顕彰しています。

【4 館は、2021 年に共同で「啄木鳥探偵處」スタンプラリーを実施し、関連イベントとして「トークイベント『おしゃべり学芸處』」を開いた】

＜アニメ「啄木鳥探偵處」における学芸員－推しのシーンをそれぞれ紹介＞

（中浜）第 1 話の後半ですね。見どころはたくさんありますが、特に啄木の下宿代を払うために京助が本を売ってしまう場面です。京助の空っぽになった本棚を見て、啄木が素敵なセリフを言いました。「私は死んだらあなたを守ります」。

＜浅沼氏＞第 1 話は、めちゃめちゃ時間をかけて収録したんですよ。

（千葉）アニメでは、胡堂が銭を投げるシーンもありましたが、胡堂には音楽評論家「あらえびす」というもう一つの顔があります。それが、ほんの少しでしたが、第 4 話で啄木と胡堂が音楽について話す啄木の回想のシーンに表れています。

＜浅沼氏＞なるほど。

（千葉）実際の胡堂は SP レコードを約 2 万枚も集める収集家でした。今日は、野村胡堂・あらえびす記念館から、蓄音機と SP レコードを持ってきました。

【蓄音機：ビクトローラ・クレデンザ、115 cm（高）×80 cm（幅）×55.3 cm（奥行）、100kg、胡堂が愛用していたものと同じ型。SP レコードは胡堂が持っていたもの】

（千葉）SP レコードと LP レコードとは見た目が似ていますが、レコードの素材と録音できる時間が全く違います。蓄音機は、レコードに刻まれた細かい音溝に鉄の針を置き、その振動を読み取って音にしていくという仕組みです。この「ビクトローラ・クレデンザ」は、蓄音機の中でも最大級・最高級品で、「蓄音機の王様」と呼ばれていたものです。野村胡堂が実際に使っていた蓄音機と同じ型の大正末期に作られたものです。

＜この蓄音機や SP レコードに、大変興味を持たれた浅沼氏の質問やツッコミに対して、千葉学芸員のていねいな説明の応酬が繰り広げられた＞

【SP レコード演奏：ドヴォルザーク作曲「ユモレスク」演奏】

＜「ユモレスク」はアニメのいろいろな場面で流れていた音楽で、作中でも啄木がバイオリンで弾いた曲でもある＞

＜浅沼氏＞こういった蓄音機で聴いたのは初めてで、緊張して聴かせていただきました。とても貴重な体験でした。

（佐々木）私の推しは第 10 話です。盛岡城跡公園にたたずむ啄木と京助という場面がありました。自暴自棄になった啄木が盛岡に帰ってきて、それを京助が追いかけてきました。盛岡城跡公園の石垣から、二人で盛岡の景色を眺めます。史実にはありませんが、アニメでは感動的に描かれました。他の学芸員も推しのシーンでした。浅沼さんはこのシーンを演じられて、いかがでしたでしょうか。

＜浅沼氏＞とても嬉しかったですね。僕が出演した他のアニメで京都を舞台にしたものがあって、実際に京都に行った時、「アニメに出てきたあそこじゃん！」という感激があちこちでありました。現実と虚構が狭まる瞬間を見るような感じですかね。

今回は、自分の出身地である盛岡でのことです。よりグッとくるものがありました。ここも何度も何度も録り直したシーンで、感情のさじ加減を量るのにすごく苦労しました。

（鳥取）時間が来てしまいました。私の一推しの場面は、他の学芸員が私の想いも含め一緒に話くれましたので、最後に、浅沼さんに啄木の作品を朗読していただきたいと思います。

最終話に、「京助さん、今度旅に出ませんか。いつか飛行機に乗ってみたいです」というセリフがあります。浅沼さん、啄木の詩「飛行機」の朗読をお願いします。プログラムの最後に詩文が載っていますので、会場の皆さんはそれをご覧ください。

＜浅沼氏＞ 「見よ、今日も、かの蒼空に
飛行機の高く飛べるを。

給仕づとめの少年が、
たまに非番の日曜日、
肺病やみの母親とたつた二人の家にあて、
ひとりせつせとリイダアの独学をする目の疲れ……

見よ、今日も、かの蒼空に
飛行機の高く飛べるを。」

＜浅沼氏＞森館長によるありがたいディレクションがあって、希望に向かう気持ちを込めて、出だしの部分を少し強く読みました。啄木の詩を、啄木の生まれたところで朗読させていただいたこと、この上なく光栄に感じております。緊張しましたが、楽しかったです。ありがとうございました。

＜浅沼さんを中心に、登壇者の中浜学芸員、千葉学芸員、佐々木学芸員、鳥取学芸員、そして森がステージ前方に立ち、「春まだ浅く」のメロディーが流れる中、サヨナラの手を振って【幕】＞ （16：08）

（文責：石川啄木記念館 森 義真）

